

チェルノブイリ原発事故

被災地支援活動と

戦禍のウクライナ

被災者支援活動

原富男氏報告会

「NPO 法人チェルノブイリ救援・中部」 副理事長

5/3(火・祝)
憲法記念日

時間: 13:30 ~ 15:30
会場: 長野県労働会館 大会議室
長野市県町 532-3
☎026-235-3216
参加費: 無料

写真 手作りのウクライナ国旗を掲げる原富男氏

Zoom 併用開催 (どなたでも視聴可)



ミーティング ID: 884 7692 0361

パスコード: 555333

お問合せ: 026-234-2116

対策実施中



清潔のご協力をお願いします。

新型コロナ感染防止対策を徹底します

- ・参加者はマスクを着用してください
- ・受付での検温手指消毒にご協力ください
- ・間隔をとって着席いただきます
- ・常時換気、一部の窓ドアを解放します

原 富男 (はら・とみお) 氏

■チェルノブイリ救援・中部 副理事長
旧ソ連ウクライナ・チェルノブイリ原発事故の被災者らの支援を続ける「NPO 法人チェルノブイリ救援・中部」(1990年設立・名古屋市)の活動に取り組み 40回以上現地を訪れ医薬品や乳児向け粉ミルクなどを届ける。東京電力福島第一原発事故後は、長野県内での保養支援にも取り組む。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻後は現地からの声に応えウクライナ支援に奔走している。

南箕輪からも示す連帯

チェルノブイリ被災者支援 NPO 副理事長

国旗作り支援金集めへ「できる限りのことを」

旧ソ連ウクライナ・チェルノブイリ原発事故の被災者らの支援を続けるNPO法人チェルノブイリ救援・中部(名古屋市中)の副理事長、原富男さん(68)は上伊那郡南箕輪村は、ロシア軍の侵攻を受けているウクライナから届くメールに心を痛める。現地の様子が伝えられ、2日も支援するシトミル市内の病院が爆撃されたとの情報が入った。原さんは「できる限りのことはしたい」とし、支援に向けて準備している。

1986年の原発事故後の発足当初からNPO法人に参加する原さんは、40回以上現地を訪れ、医薬品の提供や乳児向けの粉ミルクの配布といった支援を続けてきた。

メールを寄せるのはイエブゲニーヤ・ドンチェバさん。原発事故の被災者らを支援する現地団体の女性職員で、201

8年に南箕輪村や松本市で講演した。原さんによると、ドンチェバさんは家族とともにシトミル市内に残っており、警



ウクライナ国旗を作るため、原さんが購入した青と黄色の布。2日、南箕輪村

報が鳴ると、5階建てビルの地下に身を潜める生活を送る。2月28日のメールの最後には「戦争とは何かを全宇宙に知ってもらいたい。すみません、もう書けません」とつぶやかれていた。

原さんはウクライナの祭りに参加した経験がある。隣接するベラルーシから住民の親戚らが訪れ、民族衣装に身を包んで踊り楽しそうだった。ソ連崩壊後にウクライナやベラルーシが独立しても市民はつながり合っていると感じる。だが、今ベラルーシはウクライナ侵攻の拠点になり「当たり前だった人々の関係が引き裂かれた」と話す。

原発被災者の現状が分からず「心配事は尽きない」と原さん。青と黄色の布を買いウクライナの国旗を作り始めた。地元有志らと国旗を掲げて街頭に立ち、支援金を集める考えた。ウクライナは『第二の故郷』。理不尽な侵攻に抗議し、現地の人に連帯する一歩にしたい